

夢の実現に向けて自ら学び行動する
岩手の子ども
～指導と評価の一体化で育成する確かな学力～

<テーマの設定理由>

岩手県教育委員会が「いわて県民計画（2019～2028）第2期アクションプラン」に基づいて策定した「岩手県教育振興計画」では、基本目標を「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」としています。また、学校教育において目指す姿を「子どもたちが、地域とともにある学校において自ら生き生きと学び、夢を持ち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて知・徳・体のバランスのとれた『生きる力』を身に付けています。」としています。この「生きる力」を知の側面から捉えた要素の1つ「確かな学力」は、知識技能のみならず、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたものを指します。

この「確かな学力」は、子どもたちが日常の学びを通して主体的に資質・能力を磨くことで育成されるものであり、その実現には、子どもたち一人ひとりの学習状況や変容を細かに観察し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を継続していくこと、すなわち「指導と評価の一体化」が欠かせません。私たちには、子どもに寄り添い、その成長を確かめながら、指導の質をより高めていくための工夫を不断に行うことが求められています。

本発表会を、本県教育が育成を目指す子どもの姿を共有するとともに、これまで私たちが積み上げてきた教育実践を省察し、よりよい授業改善に向けて踏み出す契機とするため、上記のテーマとしました。

なお、上記テーマは「いわて県民計画（2019～2028）」の最終年度である令和10年度まで共通のテーマとします。今後、各学校、教育機関においては、数年先までの見通しを持った研究、教育実践を行い、本発表会でその成果を広く周知いただきたいと思います。